

基幹共同研究「日常茶飯」—日本人は何を食べてきたか—

第6回 公開研究会

「郷土料理」とは何か
—熊本県の「太平燕」を事例に—

田村和彦氏 (福岡大学人文学部 教授)

対面にて参加の
場合は申込不要

日時: 2024年3月8日(金) 15:10~16:30

会場: 神奈川大学 横浜キャンパス 9号館

9-212演習室



※対面の講演会ですが、オンラインでの参加も可能です。

オンライン参加 申込フォーム

申込み後、IDとパス
コードが自動返信メー
ルにて送信されます。



神奈川大学日本常民文化研究所 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp/>

人々の生活を描きだしてきた民俗学は、早くから各地の食文化について記録、考察を加えてきたが、現在、この領域についても文化の政治化が顕著な形で急速に進んでいる。

本発表では、近代期に中国の福建省から伝えられた明確な由来を持つ一方で、熊本の「名物」、「うちの郷土料理」(農林水産省)と位置づけられる「太平燕」という料理を事例として、①日本と中国における料理「太平燕」そのものの差異、②両国でそれぞれ異なる近年の価値再文脈化の傾向を報告する。そのうえで、食を文化財化することの問題と、主に日本の「郷土」をめぐるイメージのゆらぎについて検討する。



中国・福建省 肉燕店



中国・福建省 肉燕(扁肉)



日本・熊本 太平燕